



【みちしるべ（道標）を探してみませんか】

松阪駅を後にまっすぐすすんでいくと、日野町交差点の左側に大きな道標があります。「左 さんぐう道 右 わかやま道」と刻まれています。ここは伊勢街道と和歌山街道が交わる場所でした。付近には宿屋など多くの商店が軒を連ね、賑わっていました。古くから交通の要衝であった松阪には、伊勢神宮への参拝客をはじめ多くの人々が訪れました。旅人たちはこの道標を見て、新たな目的地へと旅立っていったことでしょう。

松阪にはこのような古い道標が多く残っています。多くは街道の交差点、集落の出入口、橋のたもとなどにあります。みなさんの近所でもみかけることがきると思っています。見つけたらそこに書かれている内容から、昔のようすを想像してみましょ。ことしの夏休み、昔の旅人になった気分道標に書かれた文字を読んでみるのもおもしろいですよ。ちなみに道標に「すぐ ○○(地名)」と書かれている場合がありますが、この「すぐ」は「すぐ近く」という意味ではなく、「まっすぐ」、「一本道」という意味です。(担当)



日野町の道標



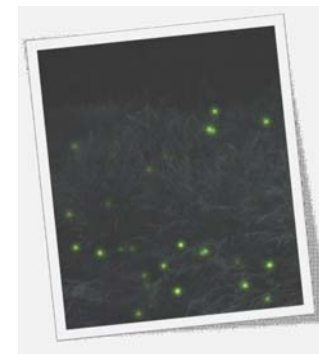
新町の道標



道標ではありませんが、昔の地名や由来などが書いてあるものもありますよ。

【目いっぱい 古代生活 夏休み】

なつ^つのよ 夏夜 わかんろうえいしゅう 和漢朗詠集
くうや^{にうや} 空夜 まど 窓は閑かなり ほたる 螢度りて後
しん^{こう} 深更 のき 軒は白し 月の明らかなる初^{はじめ}
＜ホタルが（目の前を）通りすぎたあと、くらい夜空に窓はひっそりしている。月が明るくさしはじめると、深夜（でも）軒先は白々としている。＞



夏の夜の風物詩でもあるホタルを見かけることが、ちかごろはめっきり少なくなりました。ホタルは古来、詩歌に登場することも多く和漢朗詠集の漢詩は、原詩がすでにわからなくなった紀長谷雄（「竹取物語」作者候補の一人）の作ともいわれます。そして、それに影響をうけた和歌がいくつか遺されています。

ながむれば 心もつきぬ行く螢 窓しづかなる 夕暮の空 藤原俊成
軒しろき 月の光に山かげの 闇をしたひて ゆく螢かな 宮内卿

文化財センターでは、今年も、夏休み中の行事の一つとして中学生ガイドボランティア（7月27日～8月4日）をおこないます。期間中はご来館いただく方々とともに、中学生のみなさんの活躍を精いっぱい応援したいとおもいます。また、企画展「お鍋の歴史」にあわせたワークショップ、7月20日（土）「お鍋で食べよう」、7月21日（日）「勾玉をつくろう」をおこないます。なかでも「お鍋で食べよう」は、天白遺跡付近を会場に縄文壺（レプリカ）で実際に煮たり炊いたりしてさらに試食もやってみようという、今年の日玉体験の一つです。今年の夏休み、古代の生活を目いっぱい楽しまれてはいかがでしょうか。

「和漢朗詠集」1012年 藤原公任撰 和歌と漢詩を内容毎に並べて収める（所長）



文化財センター はにわ館 & ギャラリー7月の催し物予定

7月の休館日は、1日（月）、8日（月）、16日（火）、22日（月）、29日（月）です。
開館時間は9時～17時です（入館は16時30分まで）。



バーコード読み取り
（文化財センター情報）

【はにわ館】 入館料 100円（18歳以下無料）

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」

第2展示室 ■企画展「お鍋の歴史～煮炊き10,000年の歴史～」7/20（土）～9/1（日）

ミュージアム・トーク（展示解説）7/20（土）10:00～11:00 ※申込不要

第1展示室 ■中学生ボランティアガイド 7/27（土）～8/4（日）【午前の部】10:00～正午 【午後の部】13:00～15:00
※午前の部は土日のみ ボランティアガイド実施時間帯は、はにわ館入館無料

【ギャラリー】 入場無料

第1G ■第3回三重県在住風景写真家展 6/29（土）～7/7（日）*毎日16:30まで、最終日は15:00まで

第3G ■無形民俗文化財の県指定40周年記念「かんこ踊り（獺師・松ヶ崎・小阿坂）展」

7/3（水）～7/7（日）*毎日10:00～16:00、最終日は15:00まで

第1・2・3G ■園児造形展～ちっちゃなアーティストたち～ 7/30（火）～8/4（日）*土日は18:00まで